



食に関するリスクコミュニケーション 輸入冷凍野菜の農薬管理の事例

2004年 12月3日
株式会社ニチレイ
品質保証部
山本宏樹

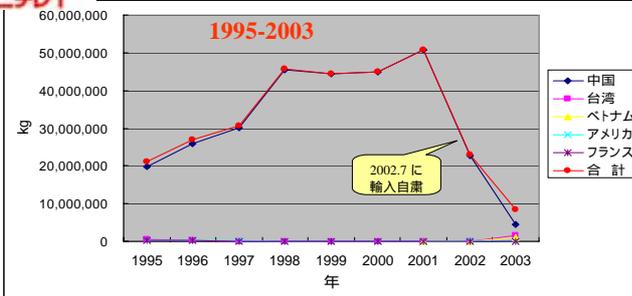


中国産ほうれん草農薬問題の経緯

年度	月日	内容
(平成14年) 2002年	3月16日	民間団体が中国産の冷凍ほうれん草から規格基準を超えるクロルピリホスを検出したとの報道。
	3月20日	検査所においてモニタリング検査(10%)を開始
	4月22日	違反発見により検査の対象を全届出に広げる
	4月26日	検体数を2倍に強化(6月4日に4倍、同月14日に8倍に強化)
	5月14日	中国政府に対し原因調査を要請(21日に再び要請)
	6月1日	法違反に係る輸入者名の公表開始(ホームページに掲載)
	6月4日	中国政府に対し対策が不十分なほうれん草を我が国に輸出しないよう要請
	7月10日	輸入業者に対し、輸入自粛の指導
	8月26日	検査命令の実施(政令改正により冷凍ほうれん草が検査命令対象として指定可能となり、同日施行されたため)
	9月7日	「食品衛生法の一部を改正する法律」(包括的輸入禁止関係)の施行
	7月22日	第1回局長級協議(北京)
	8月14日	第1回課長級協議(北京)
	8月15日	現地の加工工場、検査施設の実態調査(山東省)
	9月3日	第2回課長級協議(東京)
	9月13日	厚生労働省尾崎食品保健部長より中国側あて書簡を送付 現状の対策内容では不十分であり、更なる改善が見られない場合、輸入禁止措置発動の方向で検討を進めざるを得ない旨通告
	9月27日	中国政府国家質量監督検査総局食品安全局長より食品保健部長あて書簡が到着 中国側から新たな対策の提案 中国側が新たに提案した対策の内容を聴取
	10月25日	中国側の新たな対策を基本的に受け入れることを要請・食品衛生審議会食品衛生分科会に報告
(平成15年) 2003年	2月17日	18日 担当官を中国へ派遣し、現地の農場、加工工場、検査施設の実態調査
	2月21日	平成14年10月の局長級協議で中国側から提案のあった対策内容で文書により合意
	2月26日	冷凍ほうれん草の輸入自粛も解除
	5月20日	自粛解除後に輸入された製品から2件の違反が確定 2回目の輸入自粛指導
	5月29日	3件目の違反確定(再輸入自粛前に届出されたもの)
(平成16年) 2004年	6月24日	局長級協議(東京)
	7月31日	4件目の違反確定(再輸入自粛日に届出されたもの)
	11月4日	局長級協議(東京)
	2月12日	局長級協議(東京)
	3月29日	現地調査実施
6月17日	輸入自粛一部解除	

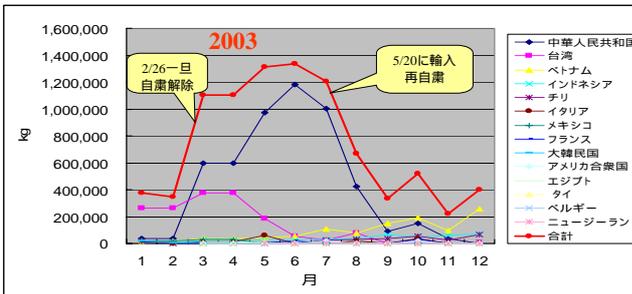


冷凍ほうれん草輸入実績 (税関貿易統計より)



2003年の冷凍ほうれん草輸入量は8,925トンとピーク時(2001年)の1/6程度しかない。

中国以外のパッカーには供給能力が不十分。



違反件数(2002年2月~2003年2月)

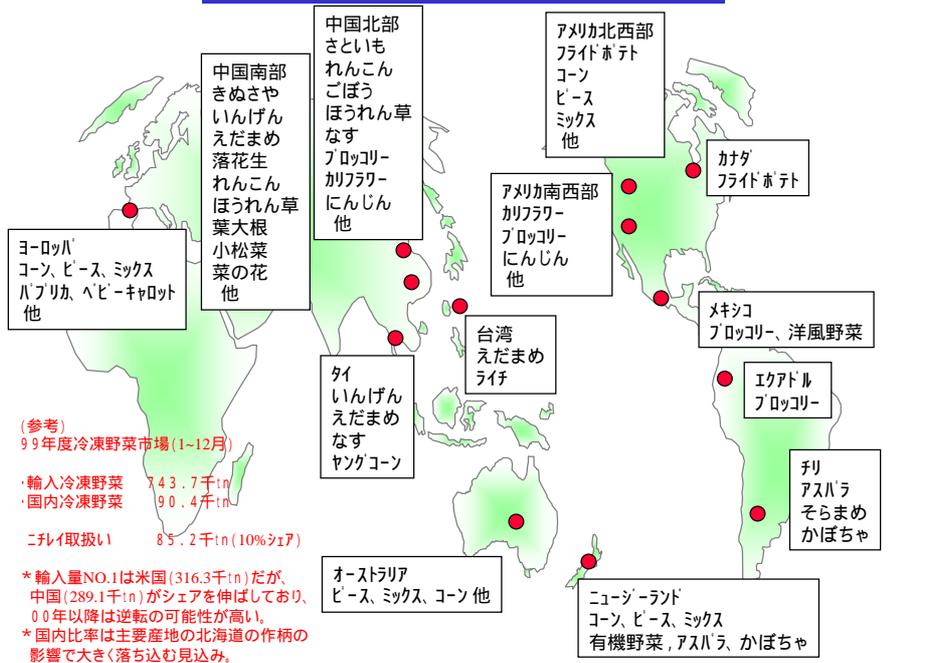
・輸入届出: 1,212件 (16,234トン)

・検査件数: 658件

・違反件数: 47件

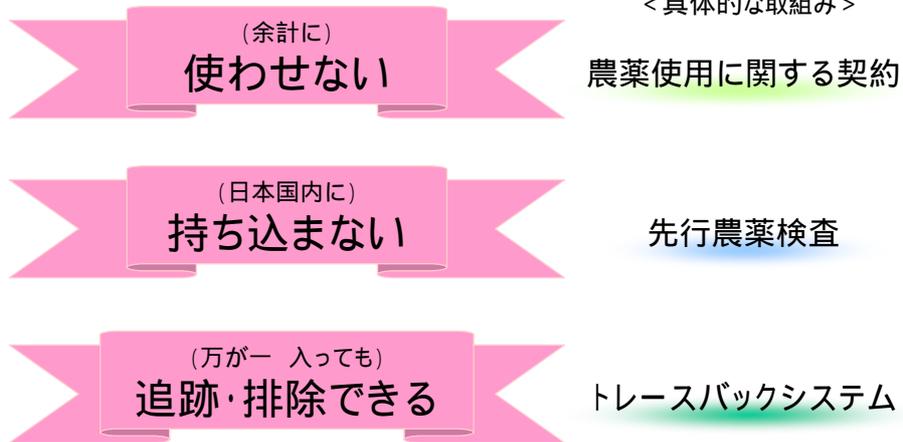
(違反率7.1%)

冷凍野菜 主要生産国及び生産品目

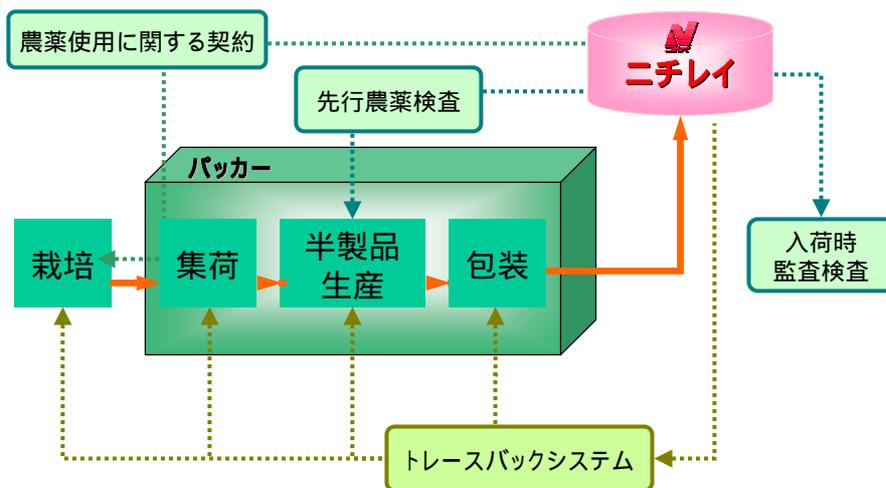




ニチレイ農薬管理 3原則

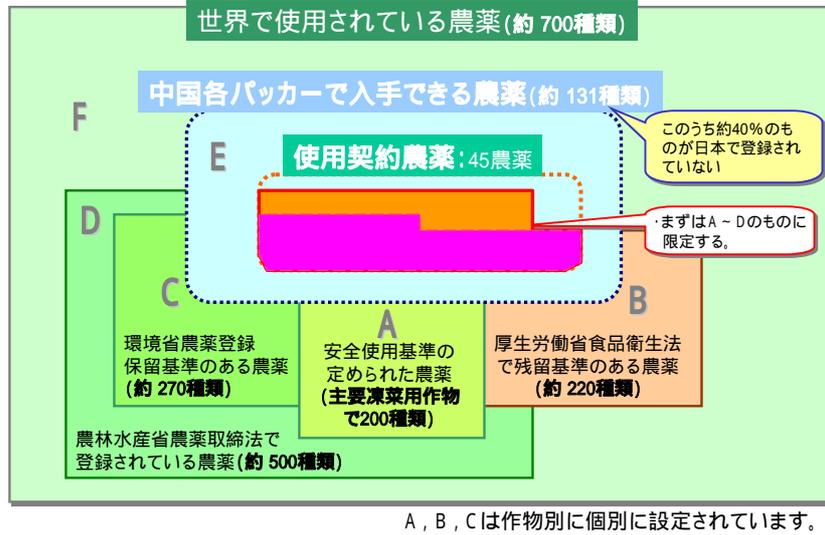


冷凍野菜の農薬管理フロー

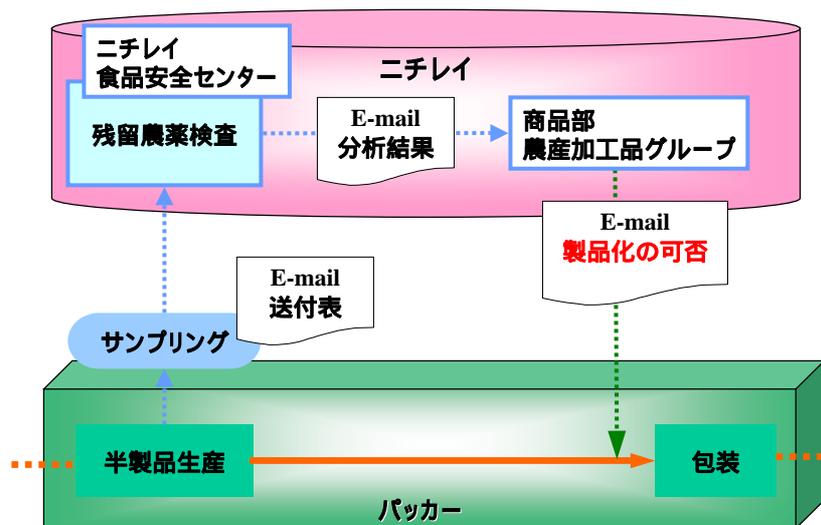




使用農薬の優先順位 (A ~ F)



先行農薬検査フロー

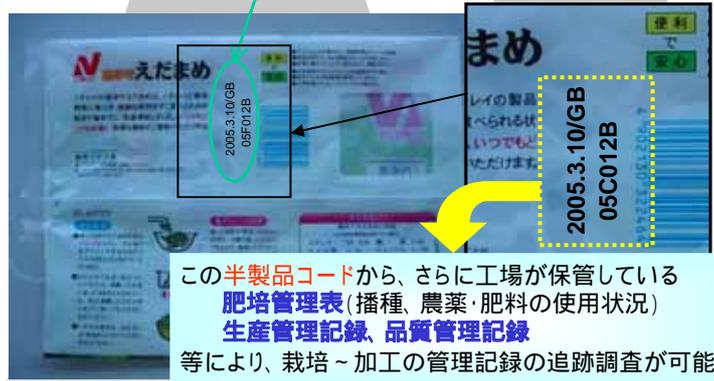




トレースバック記号の表示

賞味期限 / パッカーコード
半製品コード(生産日+月+車番+生産ライン+集荷担当者)

印字がシール部分にあると、開封の際に処分される場合がありますので
印字スペースを袋裏面の中央に移しました。



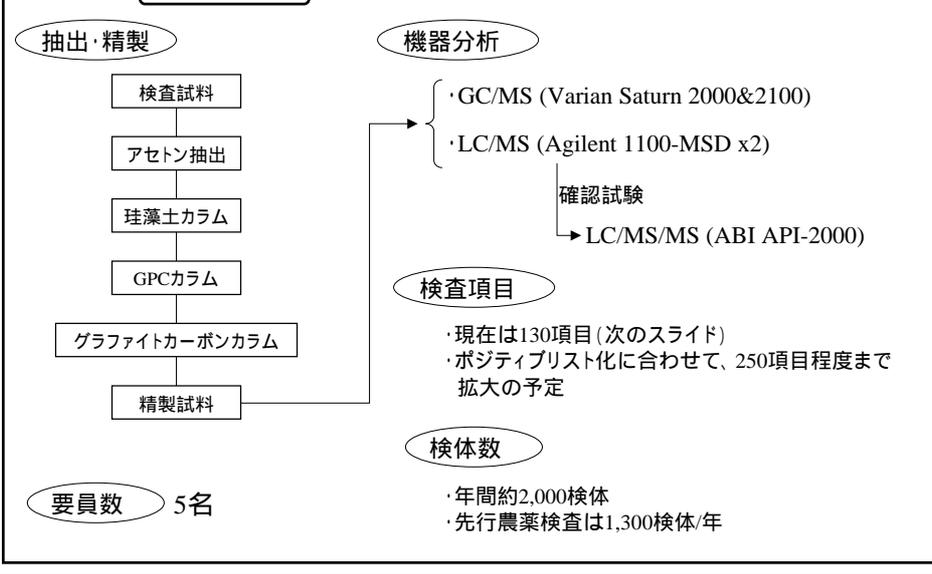
この半製品コードから、さらに工場が保管している
肥培管理表(播種、農薬・肥料の使用状況)
生産管理記録、**品質管理記録**
等により、栽培～加工の管理記録の追跡調査が可能





食品安全センターの残留農薬検査概況

残留農薬検査



要員数 5名

検体数

- ・年間約2,000検体
- ・先行農薬検査は1,300検体/年

検査対象農薬一覧

No.	農薬名	検出限界	No.	農薬名	検出限界	No.	農薬名	検出限界	No.	農薬名	検出限界	No.	農薬名	検出限界
1	BH-C	0.02	29	キナルホス	0.01	57	チオメトン	0.01	85	ピリメタニル	0.01	113	ベルメトリン	0.02
2	DDT	0.02	30	キントゼン	0.01	58	チフルザミド	0.01	86	フィプロニル	0.01	114	ベンジククロン	0.1
3	EPN	0.02	31	クレソキシムメチル	0.01	59	デイルドリン	0.01	87	フェナリモル	0.02	115	ベンジイオカルブ	0.005
4	EPTC	0.01	32	クロルピリホス	0.01	60	テニルクロル	0.01	88	フェニトロチオン	0.01	116	ベンジメタリン	0.01
5	アセタミプリド	0.01	33	クロルピリホスメチル	0.05	61	テブコナゾール	0.005	89	フェノピカルブ	0.01	117	ベンフレセート	0.02
6	アセフェート	0.01	34	クロルフェナピル	0.01	62	テブフェンピラド	0.01	90	フェンシルホチオン	0.02	118	ホレート	0.01
7	アトラジン	0.01	35	クロルフェンピホス	0.02	63	テフルトリン	0.01	91	フェンチオン	0.01	119	マラチオン	0.01
8	アラクロール	0.005	36	クロルプロファミ	0.01	64	デルタメトリン	0.01	92	フェントエート	0.01	120	ミクロブタニル	0.02
9	イソフンホス	0.002	37	クロルベンジレート	0.02	65	テルブホス	0.005	93	フェンバレレート	0.005	121	ダゾニル	0.05
10	イソプロカルブ	0.1	38	シア/ホス	0.05	66	トクロメトリン	0.01	94	フェンプロバトリン	0.01	122	メタミドホス	0.01
11	イプロジオン	0.05	39	ジエトフェンカルブ	0.01	67	トリアジメノール	0.01	95	ブタミホス	0.01	123	メタキホス	0.05
12	イセダクロプリド	0.05	40	ジクロラン	0.05	68	トリアジメホソ	0.05	96	ブチレート	0.01	124	メチオカルブ	0.004
13	エスプロカルブ	0.01	41	ジクロルホス	0.01	69	トリアゾホス	0.05	97	プロプロフェジン	0.05	125	メチダチオン	0.05
14	エチオフェンカルブ	0.005	42	ジコホール	0.05	70	トリアルミゾール	0.05	98	フルアジナム	0.05	126	メキシクロル	0.01
15	エチオン	0.02	43	シハロリン	0.02	71	トリフルラリン	0.005	99	フルシトリネート	0.005	127	メトクロール	0.005
16	エチフェンホス	0.02	44	ジフェノコナゾール	0.01	72	トルクロホスメチル	0.02	100	フルシメゾール	0.01	128	メトリプロジン	0.01
17	エトキシキン	0.05	45	シフルトリン	0.05	73	バクプロフェナゾール	0.005	101	フルトラニル	0.025	129	メプロニル	0.01
18	エトフェンプロックス	0.02	46	シプロコナゾール	0.005	74	バチチオン	0.01	102	フルバネート	0.01	130	モノクロトホス	0.05
19	エトプロホス	0.005	47	シベルメトリン	0.01	75	バチチオンメチル	0.01	103	フルフェノキサロン	0.01			
20	エトリジアゾール	0.05	48	シメチルピホス	0.04	76	ハルフェンプロックス	0.02	104	プレチラクロール	0.01			
21	エトムホス	0.01	49	シメチナミド	0.01	77	ビテルタノール	0.01	105	プロシメドン	0.01			
22	エンドスルファン	0.02	50	シメトエート	0.02	78	ビフェノックス	0.005	106	プロチオホス	0.01			
23	エンドリン	0.01	51	シメトメルブ	0.01	79	ビフェントリン	0.01	107	プロバホス	0.05			
24	オキサジアゾン	0.05	52	シメトリン	0.01	80	ピラフルフェンエチル	0.02	108	プロバリジット	0.05			
25	オキシカルボキシシン	0.05	53	シラフルオフェン	0.05	81	ピリダベン	0.01	109	プロピコナゾール	0.01			
26	カズサホス	0.01	54	シメチメソ	0.005	82	ピリフェノックス	0.01	110	プロフェノホス	0.05			
27	カルバリル	0.05	55	ダイアジジン	0.01	83	ピリミコザブ	0.005	111	ヘキサコナゾール	0.01			
28	カルボフラン	0.05	56	チオベンカルブ	0.05	84	ピリホスメチル	0.01	112	ヘブクロル	0.01			

単位: ppm

学会発表、投稿論文

- ・イオントラップ型GC/MS/MSによる残留農薬多成分分析の検討: 食品衛生学雑誌, 第43巻 pp.280-288 (2002年).
- ・GC/MS/MSによる農産物中残留農薬一斉分析の検討: 日本食品衛生学会第85回学術講演会 (2003年).

中国国内での輸出前検査・管理体制の構築
日本国内と中国の現地検査体制の構築

